

就任あいさつ



手役社長 山田 寧氏（やまだ、名は寧（やすし））。初めてお会いした方にはほとんど読んでいただ

特に山信田という名字は岩手県内ではおそらく私の家族だけだと思います。もともと両親は秋田県出身ですが、私自身は、小・中・高と盛岡の学校を卒業、東京で浪人・大学生活をおくった後にテレビ岩手に就職しました。

スタートの1年余りは営業でしたが、その後26年が報道、2年間東京支社にいた後、本社に戻って編成技術3年、総務の仕事に6年間携わりました。その間、報道時代にはエフエム岩手の村田憲

前向きに自ら挑戦

姓は山信田
やました)、名

正前社長の指導を受け、よく聞かされた言葉が「常に天下国家を考えろ。」でした。しかしながら当時の私は、タバコの吸い殻が山となった机で鉛筆を手に原稿に追われる毎日でした。

それから12年、まさか自分がエフエム岩手の社長という重責を引き継ぐことになるうとは。さらに時代はインターネット、机の上には灰皿も原稿用紙もなく、あるのはパソコン一台です。一方で、テレビ・ラジオとも新たなビジネスモデル、生き残りの道を模索する状況に前社長の言葉と姿が蘇りました。大切なのは、何事に対してもぶれることなく、前向きに自ら挑戦する姿勢だと。

去年と同じ、昨日と同じことを繰り返して
は後退するばかり、今必要なのは、番組制作でも
営業の企画でも挑戦を続けていくことです。そし
て、アナログ人間の自分が今挑戦すべきことは何
か、毎日パソコンに向かいながら携帯電話をガラ
ケーからスマホにすることを考えているところです。



岩手朝日テレビ
代表取締役社長
畠山 大氏

6月に岩手朝日テレビの社長に就任致しました。就任当初、私の特徴としてよく言われたのが、東京から来

た歴代の社長の中で初めての地元岩手出身者ということ、本当に家が津波の被害にあった被災県の局の社長という二点でした。私の実家は東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた三陸鉄道北リアス線の田野畑駅のある平井賀という漁港で古くから旅館をやっておりまして、震災直後、母親の安否が判らず、東京からようやくたどり着いた時に見た地元的光景は未だに忘れることができません。岩手の沿岸で生まれて、盛岡で中学・高校時代を過ごした私に

とつて、一緒に海に潜ったりあちこち探検した幼馴染や、授業を抜け出して街に繰り出し、夜はそれぞれの家を集まって遊んでばかりいた中高の仲間たちが今も変わらず仲良くしてくれていることが、とてもありがたく、大切な財産となっております。震災の翌年にIATに向向させて頂き、東京支社を経て2016年から本社に勤務しております。ここ数年、私たちがテレビ局、特に地方局を取り巻く環境は激的に変化し、大変厳しいものとなっております。従来の枠組みに捉われず、社内外の皆さんと力を合わせて何とか難局を乗り切って、故郷岩手への恩返し、テレビへの恩返しが微力ながらできればと思っております。私はたまたま宮沢賢治と誕生日が同じで、社員には社長就任挨拶で賢治同様、生きてる時は誰からも理解されず報われなくても、皆さんの前からいなくなった時、少しは感謝されるように雨にも負けず風にも負けず頑張りますと伝えました(笑)。皆さま、これからよろしくお願い致します。



マ・シェリ
代表取締役社長
工藤 浩氏

岩手県広告
業協会におか
れましては設
立30周年を迎
えられ、誠に
おめでとうございます。
30

年前の協会設立時は私も盛岡の広告会社で仕事をしておりました。設立時のご苦労、そしてその活動を30年間続けてこられたご努力に心から敬意を表します。

さて私こと、今年6月よりマ・シェリに勤務させていただいております。マ・シェリも年内には1100号を発行し、来年4月には創刊25周年を迎えます。盛岡市とその近郊、および花巻市、北上市に15万部を超える各戸配布をおこない、地域に密着した新鮮な生活情報を提供し続けてまいりました。電子ブックの展開、マ・シェリツアーの企画、「胎教コンサート」マ・シェリCUP」等の事業主催、カルチャー教室「エコール・ド・マ・シェリ」の運営もおこなっております。お陰様で、見やすい紙面構成、レスポンスの高い広告媒体として、読者様や広告主様から評価していただいております。とは言え、広告業界やメディアを取り巻く環境は大きく変化し、岩手県も人口減少問題をはじめ多くの課題を抱えております。生活者に最も身近なメディアとして、この街で暮らす人々に少しでも豊かさを感じていただき、また地域経済の活性化、地域の課題解決に微力ながらお役に立てるよう、マ・シェリならではの視点で努力してまいります。

個人的には三度目となる盛岡単身生活。山歩き、温泉巡り、飲み・食べ歩き等、大好きな盛岡の生活を満喫したいと思います。もちろん、マ・シェリの情報を頼りに。

雨にも負けず…

少しでも豊かさを

会員社新社長紹介

折り込み広告を主軸に

岩手日報アド・プランチ 代表取締役社長
藤原 敬氏



今年6月から湯田保道氏の後任を務めています。岩手日報社では編集、販売部門に在勤し、広告業界では全くの新顔、63歳の「あまちゃん」です。主力の折り込み広告チラシを通じて、広告主の皆さまの経済活動をお手伝いし、企業価値を高めたいと考えて

岩手のチャンス

岩手日報広告社 代表取締役社長
石杜 有慎氏



前任である岩渕の後を受け就任しました。どうぞよろしくお願います。直前まで岩手日報社東京支社におりましたので、東京から岩手への生活環境の変化や、近い関係とはいえ媒体と代理店との違いに若干戸惑ったのが正直なところです。また、内

新たな出発

岩手広告社 代表取締役社長
菅野 智氏



今年6月に社長に就任しました。昨今、メディア・情報が多様化により、広告業界の役割というものが益々重要になってきています。広告の力が私たちの生活に直接結びつき、それが経済の発展に寄与していると思われま

います。今夏扱ったチラシ「滝沢スイカまつり」の催事は、あつと言う間に完売する活況ぶりです。身近な広告としてチラシの力を確信しました。東日本大震災の大津波で流出した新聞販売店の復旧に携わった経験から、新聞と折り込み広告を糧に、被災店すべての店舗再建を実現することが責務と肝に銘じています。

丸と菜園とでは街のカルチャーが微妙に異なることも新鮮でした。東京ではそこそこの景気にもかかわらず、広告への好影響がなく、もどかしさを感じていました。しかし、岩手では地域に根差した取り組みが活発で、むしろ五輪頼みの東京にはないチャンスを感じます。微力ながら業界の活性化に努めたいと思います。

告会社へ、まだまだ手探りの状態ですが、広告に携わる人間として広告の力を以て岩手を元気に、そして岩手の魅力を発信して行ければと思っています。広告の果たす役割を常に心にとめ、人と人のつながりを大切に頑張つて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

2018年度 報告

車音頭上げの後、藤原理事長が「東日本大震災から7年目の今年、広告の力で岩手をますます元気に」と挨拶。岩手日報社代表取締役社長東根千万億氏よりご祝辞を賜り、鏡開き、乾杯と続き、ジャズ生演奏の中、会場は大いに盛り上がり



1月19日盛岡グランドホテルにおきまして、新年交賀会が開催されました。恒例の盛岡山

新年交賀会

9月20日、岩手広告協会・岩手県広告業協会合同親睦ゴルフ大会が南部富士カントリークラブで開催されました。和気あいあいと好プレイを繰り広げられ、駒井郎氏・IBC開発センター代表取締役社長がグロス83ネット72.2で初優勝、新和企画の谷藤氏がグロス76ネット72.4で準優勝、3位には読売岩手広告社の甘竹氏がグロス82ネット73.6で輝きました。

第29回親睦ゴルフ大会



納涼ビヤパーティ

8月21日ホテル東日本で納涼ビヤパーティが開かれました。藤原理事長から「協会30周年記念事業を「楽しみにして下さい」、岩手日報社岩渕広告事業局長より「お酒を酌み交わしながら語り合い、いい仕事につなげたい」とお言葉をいただきました。バンド生演奏の中、情報交換と、鋭気を養ういい時間となりました。

設立30周年事業について

30周年事業実行委員長 オリンピア企画 羽川久美氏

節目となる30周年事業は、協会会員社が社会に新しい価値を提案する姿勢と次代を担う若い人たちに業界への興味喚起を主眼とし、広告業界への信頼とプレゼンスを高めることを目的に展開しているところでありま

のフィロソフィーをメッセージしました。これから媒体各社の協力のもとメディアプロモーションを展開予定です。10月10日（水）は30周年記念ゴルフコンペをメイプルカントリークラブにて開催いたします。平成31年2月15日（金）は協会設立30周年記念祝賀会及び特別講演会をホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにて開催いたします。そのほか記念事業を検討準備中です。会員各社、特別賛助会員・賛助会員各社におかれましては、周年事業へのご理解・ご協力を引き続き宜しくお願い申し上げます。

会員社

(株)アイ・アンド・アイ企画
(株)IBC開発センター
(有)アドオフィス ミュー

(株)アド東北盛岡支社
(株)岩手広告社
岩手日報アド・プランチ(株)

(株)岩手日報広告社
(株)ウインドクロス
(株)オリンピア企画

北東北サンケイ広告(株)
(株)コスモビジュアル
(株)ジェイアール東日本企画盛岡支店

(株)総合広告社
(株)東広社
ナチュラルコム(株)

(株)東日本朝日広告社盛岡支店
(株)東北博報堂盛岡支社
(株)読売岩手広告社 (五十音順)